



地域包括ケア病床の紹介

高齢化が進む近年では、高齢者が地域で安心して生活できるよう「地域包括ケアシステム」の推進が進められています。

当院では、その地域包括ケアシステムを支えるため「地域包括ケア病床」（40床）を運営しています。住み慣れた地域での療養や在宅生活を支援するための機能を有していますので、その特徴について紹介します。地域包括ケア病床には、以下の3つの役割と特徴があります。

①急性期からの受け入れ

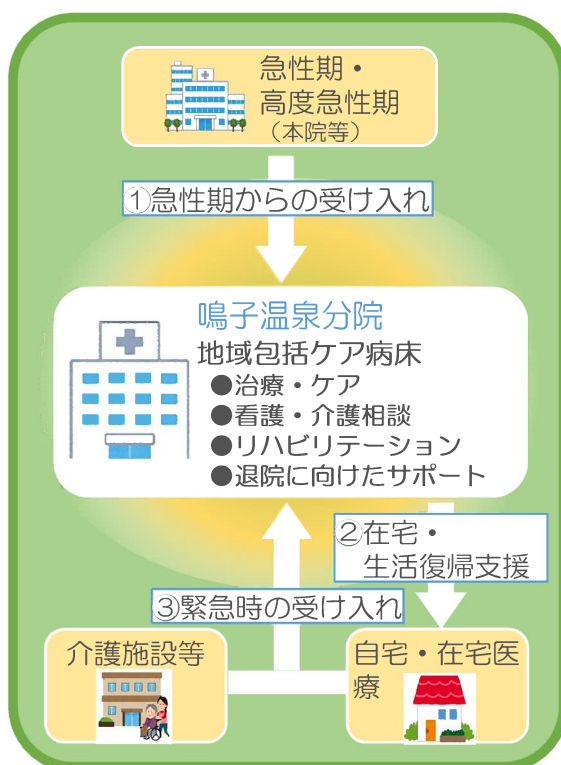
急性期治療が終了し、病状が安定したものの、すぐにご自宅や施設などでの療養に移行することに不安がある患者さんに対して、在宅復帰に向けて、診療、看護、リハビリ等を行います。

②在宅・生活復帰支援

専任の社会福祉士を配置し、患者さん・ご家族との面談や症状・状態に合わせた介護サービスのご提案など、退院後の生活が安心して送れるようにサポートしています。
※入院を機に介護申請・見直しが出来ます。

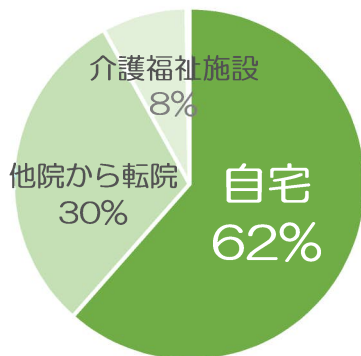
③緊急時の受け入れ

療養しているが急な発熱や体動困難、食思低下など体調を崩された場合や、家族のためのレスパイト入院、必要な治療や検査、リハビリを行い在宅への復帰をサポートします。



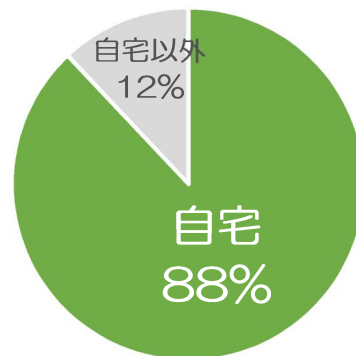
入院割合

自宅等から入院された方が最も多く62%、次いで本院など他院からの転院が30%となっています。
(※令和4年度実績)



在宅復帰率

自宅等への退院が88%と、9割程の方が在宅復帰されています。
(※令和4年度実績)



レスパイト入院

地域包括ケア病床は、介護を担われているご家族が、病気、入院、出産、冠婚葬祭、旅行などで在宅介護が困難になる場合にご家族を支援するためのお預かり入院も対応しています。



レスパイト入院実績

年度	延べ人数
令和3年度	13人
令和4年度	20人
令和5年度	9人

※令和5年度は、4月～12月までの実績

入院の主な流れ

相談
外来受診
入院申込
入院

当院はリハビリに 力を入れています



私たちは、患者さんが日常生活や社会に復帰できるように、日常生活動作や身体機能の改善など、リハビリを通して身体と心のケアに努めています。当院には、作業療法士、言語聴覚士、理学療法士が在籍していますので、それぞれの役割・特徴を紹介いたします。これからも、医師、看護師、社会福祉士など多職種で連携して在宅復帰を支援いたします。

理学療法士 (PT)

ケガや加齢による動作能力の低下を回復するため、立つ・座る・歩くといった基本動作となる運動機能のリハビリを行う職業です。

言語聴覚士 (ST)

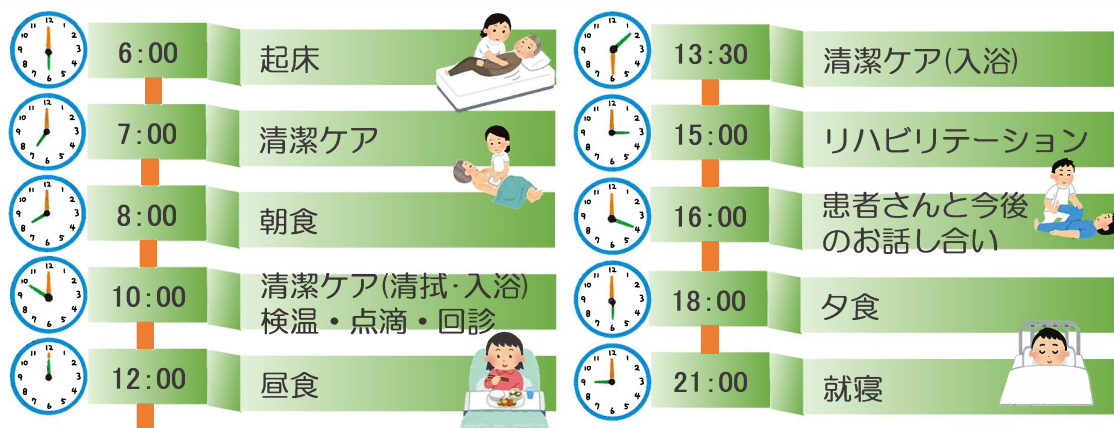
言語機能や聴覚機能、嚥下機能のリハビリを行う職業です。言語を話したり、認識したりすることができない、食べ物を上手く飲み込めないといった障害に対し、機能訓練で回復を図ります。

作業療法士 (OT)

日常生活に伴う動作能力や、社会への適応能力のリハビリを行う職業です。食事・排泄・入浴といった応用的動作が担当分野になります。



入院一日のスケジュール（一例）



患者さんの健康
状態に合わせて
計画いたします



リハビリテーション 1日平均提供時間



※全国の地域包括ケア病棟の1日平均提供時間数は40分です。(厚労省HPより・R4調査)
※当院では、1日平均88分の提供時間となっています。



ヒートショックにご注意を



ヒートショックとは

- ・ヒートショックとは、温度の急激な変化で血圧が上下に大きく変動することによって、失神したり心筋梗塞や脳卒中といった血管の病気などを引き起こす健康被害のことです。
- ・暖かい部屋から寒いトイレや浴室に移動すると、身体が温度変化によって、血圧が変化し、失神や不整脈、脳卒中や心筋梗塞を起こし、入浴中の溺死や急死に繋がることもあります。
- ・特に冬場や入浴時は、ヒートショックが起こりやすいので注意や予防が必要です。



ヒートショックが起きる原因とは

ヒートショックは、急激な温度差によって、血管が収縮した結果、血圧の乱降下が起こります。血圧が上がれば、脳梗塞や心筋梗塞などの病気に繋がる恐れがあります。また、血圧が下がれば、めまいや立ちくらみが起こりやすくなり、転倒やケガが起こりかねません。特に、ヒートショックは年齢や体質、持病の有無が大きく関係します。下記を参考に、ヒートショックには十分に気を付けましょう。

ヒートショックを起こしやすい人は

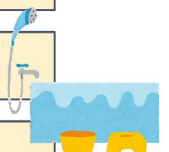
- ・高齢者や血圧が高い人
- ・生活習慣病（動脈硬化症、糖尿病、高血圧症や脂質異常症など）を患っている人
- ・熱い風呂が好きな人
- ・飲酒後に入浴する人や水分補給をあまりしない人

ヒートショックが起きたときの対処方法は

- 自分で行う対処
 - ・急に立ち上がらないで様子を見る
 - ・気を失う前に浴槽のお湯を抜く
- 他人の人への対処
 - ・浴槽の栓を抜く
 - ・大声で叫んで人を集める
 - ・倒れた人を浴槽から出す
 - ・救急車を呼ぶ

予防のポイント

- 1 入浴前に脱衣所や浴室を温めましょう
- 2 湯温は41℃以下、お湯につかるのは10分以内にしましょう
- 3 浴槽から急に立ち上がらないようにしましょう
- 4 飲酒、食後すぐの入浴はひかえましょう
- 5 入浴する前に家族にひと声かけて意識してもらいましょう





鳴子温泉分院外来診療体制表



●受付時間：午前8時30分～11時／午後1時～3時

診療科	受付時間	月	火	水	木	金
内科	午前	遠藤本良	佐藤	佐藤	東北大学神経内科	佐藤
	午後	遠藤	遠藤		東北大学神経内科	遠藤
整形外科	午前	今野		東北大学整形外科		東北大学整形外科
	午後	今野			今野	
外科	午前	佐藤	佐藤	佐藤		佐藤
耳鼻咽喉科	午前				本院医師	
眼科	午後		東北大学眼科			
小児専門	午後				岩城 ※毎月第3木	
乳腺外科	午後		吉田 ※毎月第4火			
総合診療科	午前				並木 ※毎月第2木	

患者サポートセンターのご案内

患者サポートセンターでは患者さんやご家族の皆様からの相談を、社会福祉士（医療ソーシャルワーカー）や看護師と一緒に考え、課題解決が図れるようお手伝いしております。

また、当センターでは医療安全相談窓口も担っております。

医療の相談

- ・病気への不安
- ・入院や転院への不安
- ・がん相談、緩和ケア
- ・セカンドオピニオン など

生活・福祉の相談

- ・医療費について
- ・社会保障制度について
- ・自宅での生活について など



その他の相談

- ・かかりつけ医の相談
- ・医療安全に関すること
- ・治療を受けながらの仕事について
- ・相談先がわからないこと など



患者サポートセンターのご利用方法

相談日 月～金（土日・祝日・年末年始を除く）

時間 8：30～16：30

電話 0229-82-2311

※直接ご来院の場合、総合受付の職員にお声がけください

編集・発行 大崎市民病院鳴子温泉分院

〒989-6801大崎市鳴子温泉字末沢1番地 TEL：0229-82-2311 FAX：0229-82-2273

E-mail：zimu-ocn@h-osaki.jp